



ちいきメタバースクラブ

子どもたち・地域のニーズに応える文化倶楽部

ちいきメタバースクラブ

子どもたち・地域のニーズに応える文化倶楽部



子どもたち・地域のニーズに応える
“地域文化倶楽部”（文化庁）事業デザイン

令和4年度
文化庁「地域文化倶楽部の創設に向けた実践研究」

事業名 『国際こども・せいねん劇場みやざき』
申請団体：NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER



「国際こども・せいねん劇場みやざき」（CandY）は、NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTERの活動拠点名であり、平成31年3月の劇場オープンを待ってスタートさせたパイロット事業の名称でもある。なお申請団体は、振付家集団の「んまつーボス」が教職大学院在籍中に起業した、宮崎大学のスローガン「世界を視野に地域から」を実践するアートNPO法人である。

- 実践研究の目的：申請団体は令和3年度の受託団体である。令和4年度は、前年度の課題の解決と成果の活用を図り、地域文化倶楽部の持続可能なモデルづくりに取り組む。
- 目的1：地域の子供たち（特に、中学生）が質の高い文化芸術に親しむための継続的な機会の創出
 - 目的2：次代を担う地域の子供たちの文化芸術体験活動の支援

『ちいきメタバースクラブ』

(地域文化倶楽部の事業「国際こども・せいねん劇場みやざき」の令和4年度のメニュー)

内 容：リアルとバーチャルをつなぐ、新しいコンピューティングのスタイルや表現を体験するクラブ

対 象：中・高校生

実施方法：原則メンバー固定の「定期講座」／月2回（年21回）

／参加料：1回1,000円／募集人数：10名程度

学校や地域との連携によって得られる成果等：

宮崎市と地域の文化芸術団体、学校が、宮崎市文化振興条例に示された役割をそれぞれが果たすことができる。

【目標の達成状況】

参加者数：前期の参加者数は7名、後期は5名。のべ参加者数82名。

定量的観点：本県では長らく「人口10万人あたりのコロナ感染者数全国1位」が続いた。そこで、県の感染者数の推移を見ながら前期は9回、後期は12回、実施することができた。募集人数に占める参加者数は80%。参加者数に占めるリピーター数は88%。目標値を達成できた要因としては、中・高等学校の従来の文化部で取り扱う内容との差別化を図ったこと、またそれ（内容）が中・高生にとって興味のあるメタバースであったこと等が考えられる。



<一学期> 2022年5月～7月

『メタパースと遊ぼう』
リアルとバーチャルの違いや可能性を
考える





メタパースのリアル

身体はもっとも身近な自然

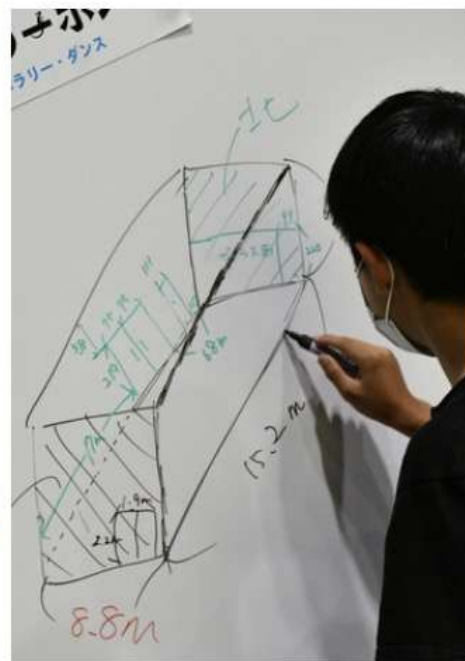
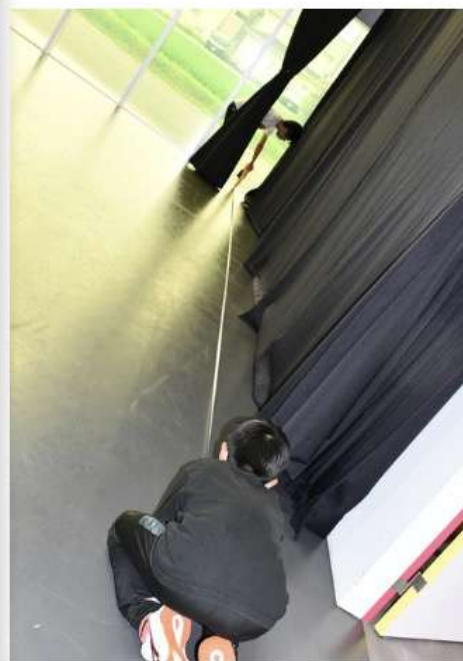




仮想現実（VR）ゴーグルなどを使い、自分の「アバター」（分身キャラクター）で、自由に行動することができる仮想空間「メタバース」に注目が集まっている。その仮想空間で、このところ「土地」が高値で売れているという。

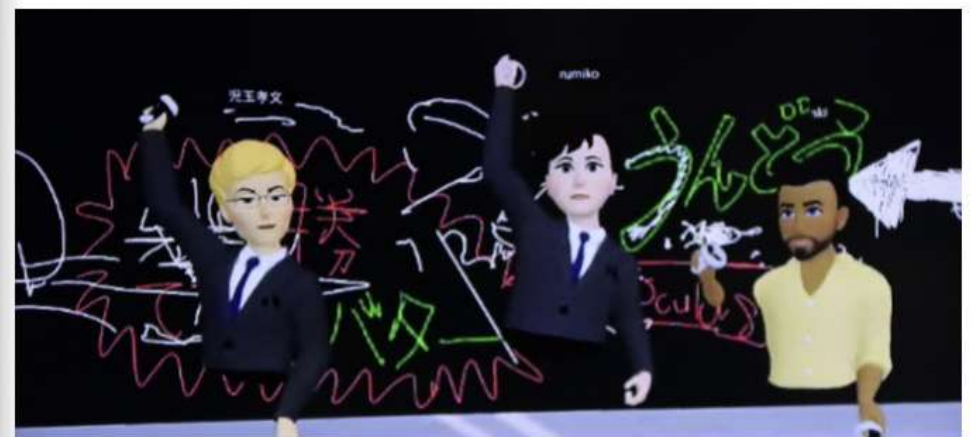
「土地」といっても、この地球上のどこにも存在しないものだ。仮想空間のなかで「土地」が売り出されると、買い求める人たちが殺到し、値段もつりあがっているという。

「CandYシアターをメタバース空間に創ってみよう！」





日本発の汗をかくメタバース倶楽部





県内公立中・文化系部活の地域移行

「学校にない活動」期待

公立中学校の運動部・文化系部活動について、地域への移行が求められる。宮崎県教育委員会が主催する「公立中学校の部活動の地域移行に関する検討会」は、8月にも提言をまとめる予定。先行して地域移行に取り組む県内の事例からメリットや課題を探った。

6月初旬、宮崎県宮崎市日方町。日方町立中学校の公団施設「国体」でも、期待が高まっている。学校では部活動で、市内の中学生たちは、仮想現実（VR）の技術を使った体験活動を楽しんでいる。西目を養う専用ゴーグルを装着し、インターネット上の仮想空間「メタバース」内に登場するキャラクターの視点で会議をした。踊った。踊った。

この活動は、文化系部活動の地域移行に向けた「受け皿」づくりを目指す同市のモデル事業「地域文化創生部（仮称）創設支援事業」の一環。ダンス公演などを行う同市のNPO法人MIVAZAKI CIDA NCE CENTERが「学校にはない活動を地域に提供したい」と、2021年23年度以降、休日の部活動学生を対象に実施している。の発展的な地域移行を促す参加した中1年、増月としている。文化庁の検討

2019年1月の中央教育審議会答申などに基づき、関係文化、スポーツともに「学校にはない活動を地域に提供したい」と、2021年23年度以降、休日の部活動学生を対象に実施している。の発展的な地域移行を促す参加した中1年、増月としている。文化庁の検討

VR（仮想現実）を楽しむ中学生＝6月、宮崎県宮崎市の「国体」でも、せいねん劇場みやざき」で、市内の中学生たちは、仮想現実（VR）の技術を使った体験活動を楽しんでいる。西目を養う専用ゴーグルを装着し、インターネット上の仮想空間「メタバース」内に登場するキャラクターの視点で会議をした。踊った。踊った。

費用、人材確保課題も

会議は、教員に頼らない指導体制が必要として、文化芸術団体や民間教室を受け皿に想定。同団体所属している人らを部活動の指導者として派遣したり、情報通信技術（ICT）を活用して遠隔指導を行ったりするなど、地域の実情に応じた取り組みが考えられるとしている。

延岡市・旭中（21年男子校長、23・4人）では昨年度から、同市の別のモデル事業を活用し、吹奏楽に外部指導者を招いたり、専門的な指導により、生徒の演奏技術向上につなげており、「一人で全てを指導しなければならぬ」という顧問の精神的な負担は軽減されたという。

一方、生徒の体調管理や鍵の開け閉めなどの安全管理も外部指導者に任せるわけにはいかず、副校長は教員の顧問も部活動に参加している。市教委学校教育課の外山義祐指導主事は「教員の働き方改革の面では課題もある」と打ち明ける。

県によると、県内公立中に文化系部活動は約15部（昨年9月時点）ある。公立中・文化系部活動の地域移行に向けた検討を行う県教育委員会は「実施となれば指導者になり得る人材がどうやって確保するかが大きな課題となるだろう。国や他県の状況を見ながら、人材バンクを設けるなど市町村と協議を進めてきたい」としている。

（取材先）

宮崎日日新聞 2022年7月24日（日）

ちいきメタパスクラブにメディアも注目！

＜二学期＞ 2022年8月～11月

『テクノロジーの専門家と出会う』
リアルとバーチャルをつなぐ
新しいコンピューティングのスタイル
や表現を学ぶ

協力専門家 ※五十音順

- ・犬飼博士氏
e-sport プロデューサー
ゲームクリエイター
- ・猪口雄三氏
空港宇宙工学 航空大学校学科教官
- ・甲斐達也氏
株式会社cotolog エンジニア
- ・中村薫氏
株式会社ホロラボ代表取締役
Microsoft Regional Director
- ・山川祐吾氏
大日本印刷株式会社
XR コミュニケーション事業開発
- ・吉井正宣氏
BASSDRUM Technical Director





特別講師（協力専門家）の甲斐達也さん。
 テクノロジーが身近な存在となった現代では、子どもたちと地域を同じくするITエンジニアの存在は、「ちいきメタバースクラブ」のウリです。
 社会や大人とのつながりを通じて、社会で必要とされる能力や資質を育む本プログラムは、キャリア教育の一環としても位置づけています。





大日本印刷株式会社（以下、DNP）は2022年4月、
合同会社AKIBA観光協議会と共に、秋葉原エリアの
XR化を推進する“バーチャル秋葉原”をオープン。
DNPは、ゲーム機器など特定のデバイスが不要で、
スマホからでもPCからでも、世界中どこからでも
インターネットのブラウザーからユーザーが入って
いける、参加障壁の低いバーチャル空間を構築して
います。

大日本印刷株式会社の山川祐吾さん（協力専門家）へ、
「バーチャル秋葉原で踊ってみた！」を送って
コメントをもらった！





航空大学校の猪口雄三教官（協力専門家）の講話「航空業界とメタバース」

興味深かったのは「Flightradar24」





『メタバース vs ダンス』の
公開クリエーション（ハッカソン）に参加





人とテクノロジーの《つながり》を大切にしているチーム
「株式会社ホロラボ」の代表取締役CEOの中村薫さん
(協力専門家) による実践的レクチャーを体感する。





2022年10月

東京大学

メタバース工学部ジュニア講座開講

メタバースを作ろう／現実空間へ繋がることを解決しよう／デザイン×工学／デザイン×エンジニア／最新高度イノベーションプログラム／他システム工学入門／最先端技術の活用を学ぶことで
学ぼう！／イノベーションメタバース工学部／オンラインホワイトボードを用いたアイデア創出講座／
新高度高度イノベーション教育入門集中講座／デジタルファブリケーションでオリジナル3Dモデル
を作ろう／スマホで製造を測ろう／未来の建築をデザインしよう／開校100周年を祝うイベント

参加料無料 〔開催場所〕主にオンライン

詳しくはメタバース工学部 Webサイトへ
www.meta-school.t.u-tokyo.ac.jp


〔お問い合わせ先〕メタバース工学部事務局（東京大学大学院工学系研究科内）



METVERSE
SCHOOL OF ENGINEERING



東京大学工学部
FACULTY OF ENGINEERING
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学メタバース工学部ジュニア講座の登録・受講



<ジュニア工学教育プログラム> 略称：ジュニア講座

（主な対象：中高生・保護者・教師）

工学や情報の魅力を早期に伝えるため、中高生を主たる対象として、産業界と大学が連携した工学教育プログラムが提供されています。具体的には、大学での工学の学びや卒業後のキャリアを伝える授業、商品開発のような体験型演習、研究室見学などをオンラインと対面を組み合わせて実施されています。

<三学期> 2022年12月～2023年3月

『シン・アバター司会』
メタパースで生み出す地域との繋がり

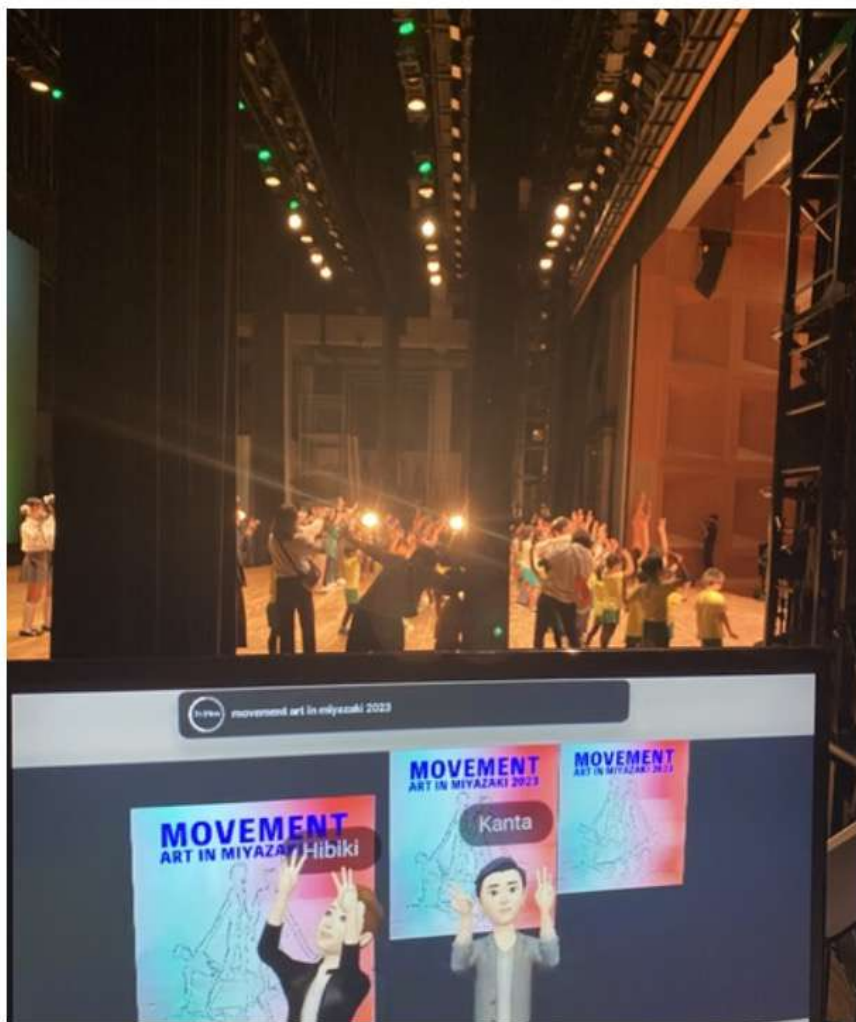
Movement Art in Miyazaki 2023
(主催：宮崎県女子体育連盟、他)





会場はメディキット県民文化センター
前日入りしてリハーサル！





1000人のお客さんが3Dアバターに注目！



“地域文化倶楽部”事業デザインの背景

- 2019年3月に、地域の認可保育園の協力の下、申請団体の拠点となる「国際こども・せいねん劇場みやざき」をオープンさせた。また、そのオープンから2年が経過する中で、劇場の存在とその目的（子供と青年に特化したアート空間）が、広く地域に認知されるようになった（例：「国文祭・芸文祭みやざき2020」分野別フェスティバル「小さなアートフェスティバル」の会場）。
- その「国文祭・芸文祭みやざき2020」が、コロナ禍の影響で延期となった（翌年の2021年に実施）。
- 劇場オープン当初より、「国際」の付いた劇場に相应しく、世界を視野に入れた活動に地域の子供たちを誘いたいと考えていた。一方、コロナ禍で海外との活動が制限される中、AIやメタバースによるコミュニケーションが一気に広がった。
- ダンスが保健体育で取り扱われるため、県の高文連にも高体連にもダンス専門部がない。そのため、高校にダンス部・ダンス同好会があっても活動の場が限られていた。
- 県内にダンス部がある中学校はごく僅かであり「中学校にダンス部があれば入りたかった」（中学生）や、「進学先の中学校にダンス部を作って欲しい」（小学生）といったニーズがあった。
- また、ダンス部が中学校にないことから、ダンススタジオ（有料）に通ってダンスを楽しむ生徒も多い。その一方で、経済的な理由で通えない生徒もいる。この生徒の貧困による格差とその是正も解決すべき課題となっていた。

見えてきた課題

今後に向けた方針・方向性

- 特筆すべき課題は3つ。一つは、参加者の体験が、学校部活動と同等に扱われるようになり、中学生が主体的に選択できるようにすること。他の一つは、参加者のニーズを汲んだ複数の「地域文化倶楽部」が活動する状況を地域に創出させること。そのために民間の文化芸術団体や民間企業等との連携協力体制を構築できないかと考えている。最後の一つは、参加者のニーズに自前の機材・用具では応えられないこと。補助金や助成金で購入できる仕組みをつくって欲しい。
- 今後に向けた方針・方向性は、宮崎市（本団体が拠点とする自治体）の公立学校（特に、中学校）が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から自治体に連携協力体制の構築を提案させていただこうと考えている。それまでは、本モデルを継続実施し、得られた成果・課題について自治体（教育委員会、他）へ報告する。
- 本事業の継続実施を想定し、継続的・定期的な補助金制度の必要性を文化庁や自治体に対して説明し続ける。また大学が実施する技術研究交流会等で成果・課題について報告することで民間企業等とのタイアップの可能性を拓く。そして本団体の事業費に占める本モデルの支出を減らしたい。



特定非営利活動法人
MIYAZAKI
C-DANCE
CENTER

ちいきメタバースクラブ

子どもたち・地域のニーズに応える文化倶楽部

デザイン：豊福彬文（宮崎大学国際連携センター）

高橋るみ子（宮崎大学研究・産学地域連携推進機構）

写真：NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER

発行：NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER出版部

代表理事 児玉孝文

〒880-0841宮崎県宮崎市吉村町南田甲1093

電話：0985-33-9110 メール：npo.mcdc@gmail.com

2023年3月15日発行（報告用・非売品）

※ 本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は
著作権法上での例外を除き禁じられています。